

県北地域における小ギク7月咲品種による8月盆出荷向け栽培法

【1 栽培のポイント】

作 型	1			2			3			4			5			6			7			8			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
(参考) 4月下旬定植 (慣行作型)	○	○	○	▽	▽	▽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5月中旬定植	○						▽	▽	▽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5月下旬定植	○						▽	▽	▽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:ハウス被覆 ○:トンネル被覆始 ●:トンネル被覆終了 ▽:親株摘心 ○:挿し芽 ○:定植 ▽:摘心 ---:育苗期間 E:エテホン処理 ■:採花期

図1 7月咲品種を用いた8月盆出荷向け作型

(1) 県北地域において7月咲となる品種は、親株をトンネル被覆無しで管理し、5月中～下旬に定植することにより、8月盆向け出荷が可能です。

(2) 親株や定植後のトンネル被覆が不要です。

(3) 作型別のポイント

5月中旬定植の作型について

- ・1番穂を使用しますが、品種によっては慣行作型の2番穂も使用できます。
- ・採花期が8月盆の需要期より早くなる品種にはエテホン処理を組み合わせます。

5月下旬定植の作型について

- ・開花期が特に早い品種群を使用します。
- ・低温管理した親株から採穂した1番穂を使用し、エテホン処理を組み合わせます。

【2 導入にあたって】

(1) アイマムパープルレッド と まどか の結果です。他の品種については、短茎化や採花期の遅延などが生じる場合があるので、作型への適応性を検討する必要があります。

(2) アイマムパープルレッド は5月中旬定植の作型が可能です。まどか は5月中・下旬定植の作型が可能ですいずれもエテホン処理が必要です。

(3) 7月咲品種は高温管理ほど早期着蓄し、短茎化の要因となるため、親株は低温下で管理します。

(4) 親株や定植後に凍霜害の恐れがある場合は不織布等によるべた掛けや定植日を数日遅らせるなどの対応が必要です。

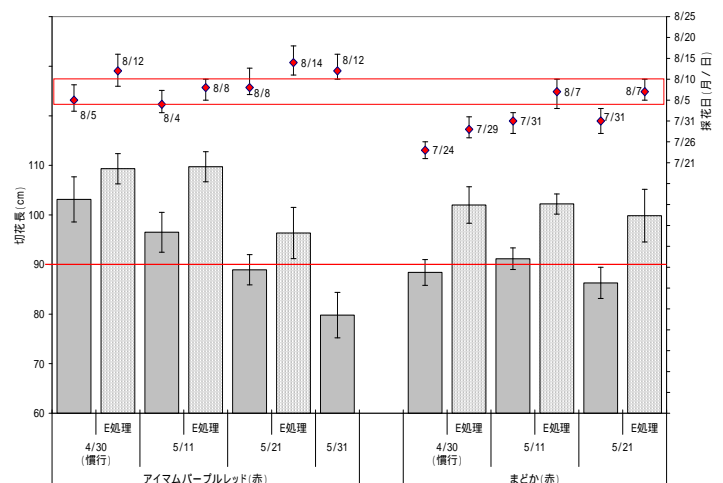


図2 定植時期の違い及びエテホン処理の有無と採花期及び切花長の関係
E 処理はエテホン処理を示す。図中のエラーバーは切花長が標準偏差、採花期が採花期間（始期～終期）を示す。アイマムパープルレッド はH20～22年の平均。ただし、5/11（E処理あり）はH22のみ、5/21（E処理あり）はH21,22の平均。4/30,5/11は1番穂、5/21/5/31は2番穂を使用。まどか は4/30はH20のみ、5/11,5/22はH22のみで、1番穂を使用。